

ワクワク はこね温泉 第 1 回「箱根二十湯」

菊川城司 (神奈川県温泉地学研究所)

はじめに

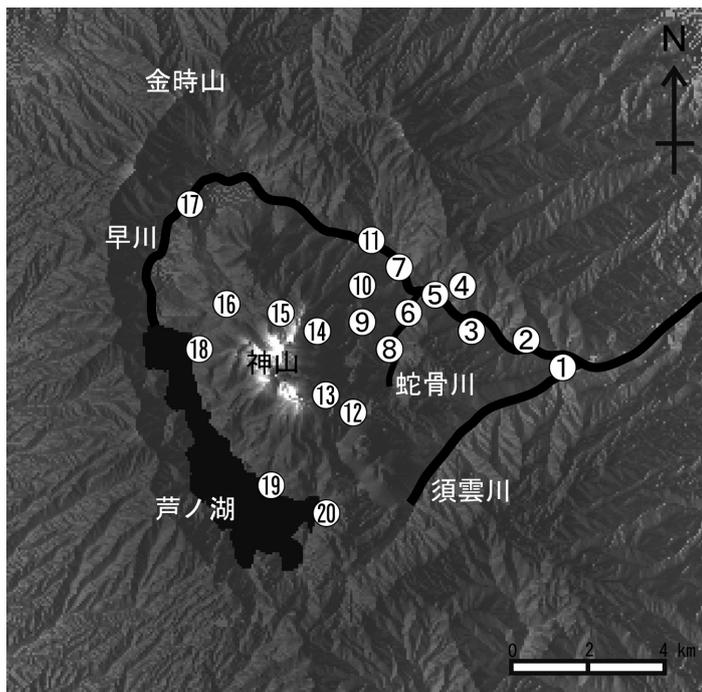
箱根に湧く温泉にワクワクしませんか？

箱根温泉は、箱根火山のめぐみによって生まれたものです。

箱根温泉の熱や溶存成分は、箱根火山の地下でおきている火山活動によってもたらされています。箱根温泉の水は、箱根火山に降る雨や雪が地下に潜ることによってもたらされています。箱根温泉を訪れる人々は、箱根火山の豊かな自然に囲まれた温泉で癒しをもたらされています。そんな箱根温泉のことをシリーズで紹介します。

箱根温泉

神奈川県には箱根温泉をはじめ、湯河原温泉、鶴巻温泉、中川温泉など数多くの温泉地が知られています。箱根温泉は箱根町内に湧出する温泉の総称で、神奈川県で最も大きな温泉地です。2007 (平成 19) 年 3 月末現在、神奈川県全体の源泉



- | | | |
|------------|------------|------------|
| ① 湯本 (73) | ⑧ 小涌谷 (20) | ⑮ 大涌谷 (78) |
| ② 塔之沢 (9) | ⑨ 二ノ平 (28) | ⑯ 姥子 (5) |
| ③ 大平台 (8) | ⑩ 強羅 (30) | ⑰ 仙石原 (7) |
| ④ 堂ヶ島 (7) | ⑪ 宮城野 (4) | ⑱ 湖尻 (6) |
| ⑤ 宮ノ下 (22) | ⑫ 芦之湯 (10) | ⑲ 蛸川 (4) |
| ⑥ 底倉 (35) | ⑬ 湯ノ花沢 (4) | ⑳ 芦ノ湖 (1) |
| ⑦ 木賀 (13) | ⑭ 早雲山 (3) | ※括弧内は源泉数 |

図 1 箱根二十湯分布図。源泉数は 2007 (平成 19) 年のデータです。



写真 1 大観山から眺めた箱根中央火口丘と富士山。美しいパノラマを一望できます。

数 620 に対して箱根温泉の源泉は 364 ケ所あり県全体の約 59% を占めています。また、温泉の湧出量は県全体の約 38,800L/min に対して、箱根温泉だけで約 22,500L/min と約 58% を占めています。(2007、神奈川県保健福祉部)。

箱根温泉は全国的に見ても国内有数の温泉地です。2005 (平成 17) 年の環境省の統計によれば、箱根町の源泉総数は全国第 7 位、高温の源泉数 (42℃以上) は全国第 5 位、総湧出量は全国第 7 位など、源泉の数、湧出量ともに全国で上位に位置づけられています。さらに、宿泊施設数では伊東温泉に次いで全国第 2 位、年間の宿泊者数は約 430 万

表 1 七湯の枝折にみる箱根温泉 (箱根七湯) の特徴。

温泉場	感 覚	効 能
湯本	冷湯、気味なし	脚気、すじけ、骨痛、痔疾、瘡毒 など
塔之沢	温湯、辰砂湯、気味かろし	中風、脚気、筋痛、冷症、頭痛 など
堂ヶ島		痰痛、脚気、血塊、痔、頭痛、めまひ など
宮ノ下	温湯、辰砂湯、味気しほはゆし	頭痛、腰痛、脚気、中風、疝気 など
底倉	熱湯、気味至而鹹し	痔疾、淋病、疝気、中風、帯下 など
木賀	熱湯、気味鹹し又酸みあり	気血不順、気虚、久咳、脚気 など
芦之湯		打身、すじけ、脚気、腋気、瘡毒 など

人で全国第 1 位です。

箱根温泉は、なぜたくさんの方が訪れるのでしょうか。

最も大きな理由は、温泉に魅力があるということです。温泉の 3 大要素は「温度」、「湧出量」、「成分」

とされていますが、箱根の温泉はどれも優れています。温泉は火山性の温泉と非火山性の温泉に分けられます。箱根温泉は火山性の温泉です。箱根火山のおかげで、高い泉温、豊富な成分の温泉が数多くあるのです。多くの観光客でにぎわっている大涌谷は、まさに箱根火山の息吹を感じられる場所です。

箱根温泉が発展した理由の一つとして、東京に近く交通の便がよいということも見逃せません。江戸時代には交通の要として箱根関所がおかれ、東海道をたくさんの旅人が行き来していました。天下の険を越えてゆく人々にとって、箱根温泉は旅の疲れをいやす大切な場所だったことでしょう。また、当時は、疾病の治療のため温泉療養に訪れる人もたく



写真 2 大涌谷の噴気と冠ヶ岳。大涌谷は箱根で最大の噴気地帯です。



写真 3 強羅付近を走る箱根登山電車。本格的な山岳鉄道で、スイッチバック方式で箱根山をジグザグに登っていきます。



写真 4 箱根駒ヶ岳ケーブルカー。1957 (昭和 32) 年から 2005 (平成 17) 年まで運行していましたが、現在は残念ながら廃線になっています。



写真5 箱根温泉発祥の地の記念碑。箱根温泉の歴史は古く、奈良時代に浄定坊が湯本温泉を開いたと言われています。



写真6 太閤石風呂。豊臣秀吉が小田原攻めの際に底倉温泉で兵の傷を癒したと言われています。

さんいました。現在では、箱根温泉に温泉療養に訪れる人はあまり見かけなくなりましたが、マイカーや箱根登山電車を利用して首都圏から日帰りや短期滞在で温泉を楽しむ人で毎日にぎわっています。また、近年は外国からの観光客が非常に多くなっています。

箱根温泉の成り立ち

箱根温泉の歴史は古く、738（天平10）年に湯本温泉が発見されたのが始まりといわれています。江戸時代には、湯本、塔之沢、宮ノ下、堂ヶ島、底倉、木賀、芦之湯の七ヶ所の温泉場を合わせて箱根七湯（はこねななゆ）と呼び、広く人々に知られ温泉場がにぎわっていました。江戸時代の1811（文化8）年には「七湯の枝折」が書かれました。これは、現在の温泉旅行ガイド書のようなもので、当時の箱根七湯の様子が詳しく記載されています。「七湯の枝折」には、温泉場ごとに温泉の感覚や効能が記載されており、当時から七湯それぞれの個性が認識されていたことがわかります（表1）。

その後、明治には、温泉場の数は、

表2 箱根温泉の主な泉質と特徴。

温泉場	主な泉質	特徴
箱根湯本温泉	単純温泉、アルカリ性単純温泉、ナトリウム-塩化物泉、ナトリウム-塩化物・硫酸塩泉	箱根温泉発祥の地。箱根温泉の入口に位置する、箱根で最も大きい温泉場。
塔之沢温泉	アルカリ性単純温泉	早川沿いの古き良き時代のおもかげを残した温泉場。
大平台温泉	アルカリ性単純温泉、ナトリウム-塩化物泉	浅間山の東麓に位置する、戦後に開けた温泉場。
堂ヶ島温泉	単純温泉、ナトリウム-塩化物泉	国道からケーブル、ロープウェイでおける早川の谷底の閑静な温泉場。
宮ノ下温泉	ナトリウム-塩化物泉	近代箱根温泉の発祥地。温泉のある小学校がある。
底倉温泉	ナトリウム-塩化物泉	蛇骨川沿いにあり、豊臣秀吉ゆかりの石風呂がある。
木賀温泉	単純温泉、ナトリウム-塩化物泉	木賀溪谷沿いにあり、江戸時代の幕府献上湯である。
小涌谷温泉	単純温泉、アルカリ性単純温泉、ナトリウム-塩化物泉、ナトリウム-塩化物・硫酸塩・炭酸水素塩泉	千条の滝やツツジ、紅葉など四季の自然が美しい。
二ノ平温泉	単純温泉、ナトリウム-塩化物泉、ナトリウム-塩化物・硫酸塩泉	小涌谷から強羅に至る道路沿いに位置する、戦後に開発された温泉場。
強羅温泉	単純温泉、ナトリウム-塩化物泉、カルシウム・マグネシウム-硫酸塩・塩化物泉	神山の北東部、早雲山噴気地帯の末端に広がる温泉場。
宮城野温泉	ナトリウム-塩化物泉、ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉	大文字焼きが行われる明星ヶ岳の山すそに広がる温泉場。
芦之湯温泉	単純硫酸黄泉、含硫黄-カルシウム・ナトリウム・マグネシウム-硫酸塩・炭酸水素塩泉	駒ヶ岳山麓に古くから湯治場として開けていた。重要文化財の石仏群がある。
湯ノ花沢温泉	単純硫酸黄泉	駒ヶ岳の東麓、微弱な噴気口や自然湧泉が分布している。
早雲山温泉	単純温泉	噴気地帯の火山性水蒸気を利用した温泉造成が行われている。
大涌谷温泉	酸性-カルシウム・マグネシウム-硫酸塩・塩化物泉	箱根で最も大きな噴気地帯で、火山性水蒸気を利用した温泉造成が行われている。
姥子温泉	単純温泉、カルシウム・マグネシウム・ナトリウム-炭酸水素塩・硫酸塩泉	金太郎が眼病を治した伝説がある。湯治場の面影が残る。
仙石原温泉	単純温泉、カルシウム-硫酸塩泉、含硫黄-カルシウム-硫酸塩泉	大涌谷からの引き湯で開けた。天然記念物の湿原植物群落がある。
湖尻温泉	ナトリウム・カルシウム・マグネシウム-硫酸塩・炭酸水素塩泉	昭和40年以降に温泉が掘削された。芦ノ湖遊覧船の発着場がある。
蛸川温泉	カルシウム・ナトリウム-塩化物・硫酸塩泉	箱根で最も新しい温泉場。
芦ノ湖温泉	単純温泉	昭和40年代に引湯によって生まれた新しい温泉場。箱根神社、関所跡など見所が多い。

注)各温泉場には、主な泉質に掲げた以外の泉質の温泉もあります。



写真7 箱根湯本温泉。箱根で最も大きな温泉場で、四季を通じて観光客でにぎわっています。



写真8 塔之沢温泉。古き良き時代の雰囲気を残す静かな温泉場です。

強羅、小涌谷、姥子、湯ノ花沢、仙石原を加えた十二湯となり、昭和2年に温泉台帳が整理された際には、箱根温泉として88源泉が登録されました。

現在では、大平台、宮城野、二ノ平などが加わり温泉場の数は全部で二十ヶ所となり、箱根二十湯（はこねにじゅうとう）と呼ばれています(図1)。

箱根温泉の泉質

箱根温泉は、温泉場の数が多いだけでなく、温泉の種類（泉質）も豊

富です。現在用いられている泉質名は、環境省の発行する鉱泉分析法指針で定められています。この指針では、治療の目的に供しうる温泉を療養泉と定義して、その分類法が示されています。指針が1979（昭和54）年に改定されるまでは、泉質名には食塩泉、石膏泉など塩類の名前を用いていました。現在では、ナトリウム－塩化物泉、カルシウム－硫酸塩泉など主要なイオンを組み合わせで呼ぶように決められており、塩類に基づいた分類は「旧泉質名」となっています。しかし、「旧泉質名

のほうが温泉のイメージをつかみやすいという意見もあるため、現在でも「旧泉質名」を併記することが多々あります。

箱根温泉には、泉質名の分類で20種類以上もの泉質が分布しています。箱根温泉は、そのバラエティに富んだ泉質ゆえ、「温泉のデパート」とか「温泉の博物館」とか形容されることもあります（表2）。

次回からは、箱根二十湯を温泉場ごとに詳しく紹介していきますので、お楽しみに。

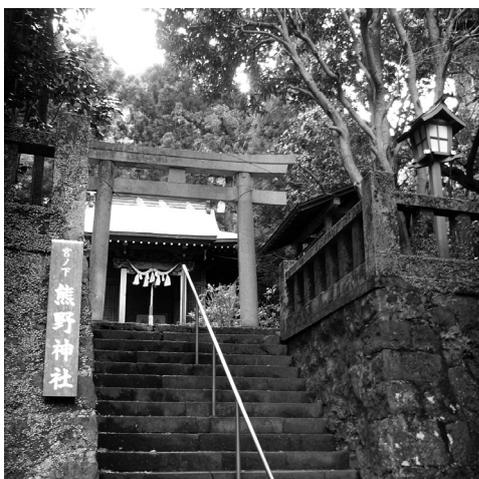


写真9 宮ノ下熊野神社。宮ノ下温泉は熊野神社の下に開けたことからこの名前が付けられました。



写真10 千条（ちすじ）の滝。岩肌から湧き出た水が幾筋もの糸状に流れ落ちる美しい滝です。